



「あの人はどうですか」

2026 年 2 月

英語科 富阪 輝

イエスは言われた。「わたしの来る時まで彼が生きていることをわたしが望んだとしても、あなたには何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」

(ヨハネによる福音書 21 章 22 節)

昨日、ふとInstagramをスクロールしていると、キラキラした友人の写真に目が留まりました。「うわ、すごい大勢で遊んでる。みんなオシャレな服着てるなあ。このきれいな景色はどこだろう」。その時、私は無意識に自分と彼らを比べていることに気づきました。「この人たちに比べたら、自分は全然イケてないよなあ。なんで自分ってこうなんだろう」。タイムラインに流れてくる他人の成功や幸せと、自分の現実を比べては、勝手に自信をなくしたり、逆に「自分の方がマシだ」と見下して安心しようとしたり。私たちの心はそんな風に、常に誰かとの比較で揺れ動いていないでしょうか。

実は、今日の聖書の箇所が登場するペテロもまた、似たような経験をしました。みなさんはペテロという人物をご存じですか？彼はイエス・キリストの一番弟子であり、後の教会のリーダーとなった偉大な人物です。しかし、最初から立派な「聖人」だったわけではありません。元々はガリラヤ湖の漁師で、性格はとにかく直情的でおっちょこちょい。「イエス様のためなら命も捨てます！」と熱く誓ったすぐあとに、自分が窮地に陥ると怖くなって「イエスのことなんて知らない」と三度も嘘をつき、誓ってまで否定して逃げ出した話はとても有名です。情熱的だけど失敗も多い、弱くて人間臭い、それがペテロという人でした。

今回の箇所は、そんな失敗だらけのペテロが、復活したイエスと再会した場面です。イエスは、三度も「知らない」と裏切ったペテロを責めずに許し、「私の羊を飼いなさい」と新しい使命を与えました。それは、「これからは自分のためではなく、人のために生き、最後には命をかけて神に従う」という、厳しくも尊い道のを意味していました。



「ああ、許されてよかったねペテロ」と、私たちが胸をなでおろしたのもつかの間、彼はふと振り向きます。そこには、イエスから特に愛されていたもう一人の弟子、ヨハネがいました。思ったことをすぐに言うってしまう彼は、思わずこう尋ねてしまいます。「主よ、この人はどうなるのでしょうか」(21 節)。

ここがいかにペテロらしく、私たちの姿とも重なります。「自分は使命を告げられたけど、あの愛されている彼はどうなんだろう」。とても素直な問いですが、せっかく大事な使命を託されたのに、ペテロの視線はすぐに横に逸れ、他人との比較に向いてしまったのです。

そんなペテロに、イエスはズバリと言われました。「あなたには何の関係があるか。あなたは、わたしに従いなさい。」冷たく突き放したように聞こえるかもしれませんが、そうではありません。これはきっと、「ペテロ、あの人がどう生きるか、どんな恵みを受けるかは、君の使命や幸せとは関係がないんだよ。私は他の誰でもない、あなた自身と向き合いたいのだ」という、イエスからの「比較から解放されなさい」という教えだったのです。

お金やルックス、能力といった、わかりやすい物差しを使って誰かと比べても、私たちは自分の人生を幸せに生きることはできません。それではいつまでたっても、他人があなたの幸せの基準を決めてしまうからです。神様は、「大勢いる中の一人」としてではなく、「かけがえのないあなた一人」と向き合ってくださいます。勉強でも、部活でも、進路でも、横を見る必要はありません。神様は、隣のあの人ではなく、あなた自身がどう生きるかを楽しみに見ておられます。